

データ室から

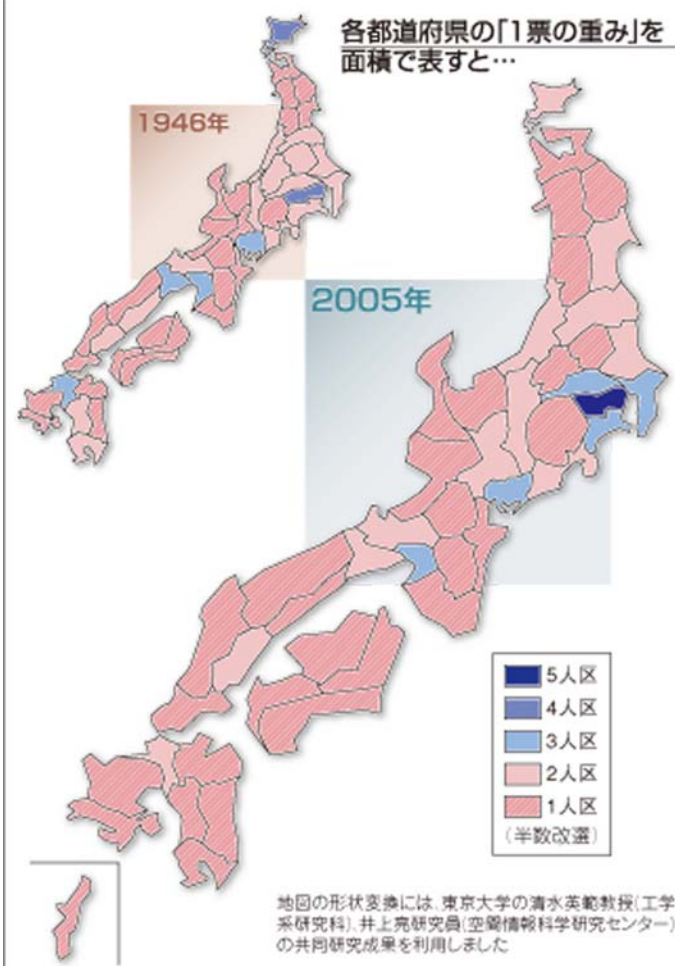
参院選挙区の「四増四減」、最大の鳥取は四・八減の格差は正後、二一四倍です。西日本の日本票の重み」が最小の選挙海側と四国の大きさが目区は東京から大阪に変わ立ちます。第一回参院選

3.98倍が限界

の格差は二・六二倍でしる定数は正でも三・九八たが、地域的な偏りはあ倍が限界です。「〇・五りませんでした。都市部人口にすれば二倍近くへの人口集中がゆがみとまで下がりますが、八県なっておりまして。で六年に一度しか地代人口比で議員過剰の表を選出できなくなりま選挙区は一人区。さらなす。(選挙調査室・松波功)

参院選の1票の格差

各都道府県の「1票の重み」を面積で表すと…



1議席あたりの人口を比べると…

1946年		2005年	
議席	格差	議席	格差
宮城県 2	2.62倍	大阪府 6	4.84倍
岐阜県 2	2.59	神奈川県 6	4.83
長崎県 2	2.54	北海道 4	4.64
愛媛県 2	2.48	福岡県 4	4.16
山口県 2	2.47	東京都 10	4.14
三重県 2	2.46	愛知県 6	3.98
山形県 2	2.32	埼玉県 6	3.87
鳥取県 2	1	鳥取県 2	1

【データ】2005年国勢調査速報値、2006年6月成立の「4増4減」を反映